

Ⅲ 千葉第2キャンパス

1 年間の諸行事・諸活動

2007(平成19)年度 学年暦 看護学部〔前学期〕

※(千葉C)は千葉キャンパスで開催された行事等

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1	日	1	火	1	金	1	日	1	水	1	土
			創立記念日振替休日		B型肝炎ワクチン接種1		七夕祭り(千葉C)		授業予備期間		
2	月	2	水	2	土	2	月	2	木	2	日
	第43回入学式		海の日振替休日				盂蘭盆会(3、4時限休講) (千葉C)				
3	火	3	木	3	日	3	火	3	金	3	月
	学生証配布、教務・学生厚生オリエンテーション、教科書販売		祝日(憲法記念日)						基礎看護学実習 I		
4	水	4	金	4	月	4	水	4	土	4	火
	新入生セミナー		祝日(みどりの日)						図書室夜間開館終了		再試験対象者発表(千葉C科目)
5	木	5	土	5	火	5	木	5	日	5	水
	↓		祝日(こどもの日)		献血実施(千葉C)						
6	金	6	日	6	水	6	金	6	月	6	木
	1年次健康診断(千葉C)、白衣探寸、教科書販売、前期履修登録受付開始				↓		B型肝炎ワクチン接種2		授業予備期間 前学期授業終了		再試験締切(千葉C科目)
7	土	7	月	7	木	7	土	7	火	7	金
			降誕会(1、2時限休講)(千葉C)				↓		基礎看護学実習 I		
8	日	8	火	8	金	8	日	8	水	8	土
					B型肝炎ワクチン接種1						再試験日程発表(千葉C科目)
9	月	9	水	9	土	9	月	9	木	9	日
	授業開始 図書室夜間開館開始(8/6迄)								↓		
10	火	10	木	10	日	10	火	10	金	10	月
									再試験対象者日程発表(千葉第2C科目)、追試験日程発表(千葉C、千葉第2C科目)		再試験(千葉第2C科目) 前学期成績発表
11	水	11	金	11	月	11	水	11	土	11	火
	日本学生支援機構貸与奨学金説明会(千葉C)										再試験期間(千葉C科目) 後期履修登録受付開始
12	木	12	土	12	火	12	木	12	日	12	水
	前期履修登録締切										↓
13	金	13	日	13	水	13	金	13	月	13	木
									追試験期間(千葉C、千葉第2C科目)		再試験(千葉第2C科目)
14	土	14	月	14	木	14	土	14	火	14	金
									再試験締切(千葉第2C科目)		後学期授業開始 図書室夜間開館開始
15	日	15	火	15	金	15	日	15	水	15	土
											AOⅡ期
16	月	16	水	16	土	16	月	16	木	16	日
							祝日(海の日) 通常授業				
17	火	17	木	17	日	17	火	17	金	17	月
											祝日(敬老の日) 通常授業
18	水	18	金	18	月	18	水	18	土	18	火
	履修登録変更期間										履修登録締切
19	木	19	土	19	火	19	木	19	日	19	水
	↓								淑友会		
20	金	20	日	20	水	20	金	20	月	20	木
									↓		
21	土	21	月	21	木	21	土	21	火	21	金
	落慶式、開学式										
22	日	22	火	22	金	22	日	22	水	22	土
			献血実施(千葉C)								
23	月	23	水	23	土	23	月	23	木	23	日
	創立記念日 通常授業										祝日(秋分の日)
24	火	24	木	24	日	24	火	24	金	24	月
							前学期定期試験				秋分の日振替休日 通常授業
25	水	25	金	25	月	25	水	25	土	25	火
26	木	26	土	26	火	26	木	26	日	26	水
			第4回スポーツ大会(千葉C)								
27	金	27	日	27	水	27	金	27	月	27	木
							↓				
28	土	28	月	28	木	28	土	28	火	28	金
											履修登録変更期間
29	日	29	火	29	金	29	日	29	水	29	土
	祝日(昭和の日)				B型肝炎ワクチン接種2						↓
30	月	30	水	30	土	30	月	30	木	30	日
	振替休日						前学期定期試験				
31	日	31	木	31	日	31	火	31	金	31	日
							授業予備期間				

2007(平成19)年度 学年暦 看護学部〔後学期〕

10月		11月		12月		1月		2月		3月			
1	月	1	木	1	土	1	火	祝日(元日)	1	金	図書室夜間開館終了	1	土
2	火	2	金	龍澤祭準備のため休講	2	日		2	水	追試験日程発表(千葉C、第2C科目)	2	日	
3	水	3	土	祝日(文化の日) 龍澤祭(千葉C)	3	月	成道会(3、4時限休講)(千葉C)	3	木	A方式入試一次	3	月	
4	木	4	日	↓	4	火		4	金	↓	4	火	
5	金	5	月	龍澤祭後片付けのため(午前休講)	5	水		5	土		5	水	
6	土	6	火		6	木		6	日	追試験期間(千葉C、千葉第2C科目)	6	木	
7	日	7	水		7	金		7	月	新年授業開始日 図書室夜間開館開始	7	金	
8	月	8	木	祝日(体育の日)	8	土		8	火		8	土	
9	火	9	金	敬老の日振替休日	9	日		9	水		9	日	
10	水	10	土	秋分の日振替休日	10	月		10	木		10	月	
11	木	11	日	勤労感謝の日振替休日	11	火		11	金	B型肝炎ワクチン接種3	11	火	
12	金	12	月		12	水		12	土		12	水	
13	土	13	火	第1回父母懇談会	13	木		13	日		13	木	
14	日	14	水		14	金		14	月	祝日(成人の日)	14	金	
15	月	15	木		15	土		15	火		15	土	
16	火	16	金		16	日		16	水		16	日	
17	水	17	土		17	月		17	木		17	月	
18	木	18	日		18	火	淑徳ハーモニックラブボー コンサート	18	金	大学入試センター試験準備 (12/24振替)	18	火	
19	金	19	月		19	水		19	土	大学入試センター試験	19	水	
20	土	20	火	献血実施(千葉C)	20	木		20	日	↓	20	木	
21	日	21	水	↓	21	金		21	月	通常授業	21	金	
22	月	22	木		22	土		22	火		22	土	
23	火	23	金	祝日(勤労感謝の日) 通常 授業 インフルエンザ予防接 種(任意)(4限目)	23	日	祝日(天皇誕生日)	23	水	後学期定期試験	23	日	
24	水	24	土		24	月	振替休日(通常授業) 年内授業 終了 図書室夜間開館終了	24	木	↓	24	月	
25	木	25	日		25	火		25	金		25	火	
26	金	26	月		26	水	冬季休業期間(1月6日まで)	26	土	(大学入試センター試験再試験 予備日)	26	水	
27	土	27	火		27	木		27	日		27	木	
28	日	28	水		28	金		28	月	後学期定期試験	28	金	
29	月	29	木		29	土		29	火	↓	29	土	
30	火	30	金	学長講話会(4限目)、型肝炎抗 体検査	30	日		30	水		30	日	
31	水	31	月		31	月		31	木		31	月	

看護学部は平成19年4月に開学した。入学生は男子15名、女子98名、合計113名であった。一期生として自ら看護学部の歴史を創るという意気込みが入学当初より窺え、ボランティアを希望する学生の名簿一覧を作って学部長に提出するなど、活動的な側面が見られた。

・落慶式

平成19年4月21日(土)看護学部の大講義室において、設計・施工業者、来賓として国立病院機構千葉東病院、本学園、既設学部の各関係者、看護学部教職員の出席のもと、落慶式が行われた。落慶式法要の後、大乘淑徳学園から、設計・施工に関わった(株)佐藤総合計画、(株)西松建設・(株)鶴沢建設工事共同企業体へ感謝状が贈呈された。また、同(株)佐藤総合計画、(株)西松建設・(株)鶴沢建設工事共同企業体からは、大乘淑徳学園へ記念品がそれぞれ贈呈された。

・開学記念講演会

平成19年4月21日(土)落慶式に引き続き開学記念講演会が開催された。講師は、京都大学大学院教授カール・ベッカー氏、演題は、「看護と未来ー自分の未来、日本の未来」であった。この講演でベッカー氏は、「看護」や「淑徳」の字の持つ意味、さらに、「私たちは大きなものに護られている」と話され、人として生きていくうえで、さらに人の命にかかわっていくときに大切にしたいものについて印象深い講演であった。

・開学式

平成19年4月21日(土)看護学部大講義室において、音楽法要の後、式辞、祝辞、学生宣誓(男女一名ずつ)、祝電披露、大学歌へと式次第どおりに進められた。出席者は、市や県の関係者を始め、私立大学関係者、国立病院機構千葉東病院関係者、実習予定先病院関係者、設計・施工関係者、近隣協力者、本学園関係者、大学既設学部関係者、看護学部教職員、および全新生生であった。

・施設見学

平成19年4月21日(土)開学記念講演会後、及び、開学式後の2回に分けて、看護学部校舎見学会を実施した。案内役として看護学部の教員が要所に立ち、3つの看護学実習室などを含む看護教育に特化した教育設備について説明した。

2 教育事業

・教育向上推進委員会(以下、FDとする)の活動

FD委員会は、教育向上推進委員会規程のもとに19年度の活動を展開した。また、教育向上推進要領については、平成20年度から施行できるように作成した。

平成19年度に実施した内容は次のとおりである。

<授業アンケート>

教育向上推進委員会が提案し学部長が決定した内容の授業アンケートを、前学期・後学期ごとに、学生にはWeb上で実施した。教員による授業アンケートは紙面にて実施した。

前学期の授業アンケートの結果は、各担当教員にフィードバックした。科目によっては学部長が担当教員にヒアリングして、教員の考えや授業中の学生の学びの状況を確認し、改善点を明確にした。後学期からは、教員による授業アンケートには学生のアンケートの結果を受けての今後の改善点の欄を加えた。年度末には、前学期と後学期の集計データに、学部長・学科長の点検・評価を加えて冊子にして公開するとともに、ホームページ上にも公開した。

<教員研修>

第1回目の学内研修会は、教育課程についての理解を深めるため、10月に文科省の担当者に依頼し、看護学部の教員全員（平成19年度勤務者）参加により実施した。

第2回目の学内研修会は、建学の精神についての理解を深めるため、3月に副学長より看護学部の教員（平成19年度勤務者及び平成20年度勤務予定者）に対し実施した。

<その他>

学外研修は、大学に案内のあった研修会について、適切な内容と思われる6件の研修会を学部長および教育向上推進委員会委員長が選択して教員を派遣し、全教員が参加している教員会議で報告して内容の共有化を図った。

・学長のオフィスアワー

平成19年6月7日・8日に、地域・精神看護学実習室において、全学生（1年生）を2グループに分けて、1グループずつ、それぞれ学長を囲みフリートーキング形式で懇談会が開かれた。始まったばかりの学生生活、学習のこと、その他学食のメニュー、黒板、購買部、スクールバス、テニスコート、若樹寮に関することなどが話題となっていた。これらの学生からの意見に対して、翌月の7月10日には、学長からの文書による回答が看護学部へ届き、掲示版にて公開された。

・学長講話

平成19年11月30日、大講義室にて、「なぜ淑徳は共生なのか」をテーマに学長講話があった。孤独死の話や口火に、現代社会における共生の危機（つながりの希薄化）、あらためて共生を問う「なぜ共生なのか、大乘仏教の理想と続き、最後は「看病福田」の実践に使命感と誇りを」という話で締めくくられた。

・キャリア支援

平成19年11月30日、第1回1年生のためのキャリアガイダンスを大講義室にて実施した。これは1年生が、看護師保健師国家試験の概要や合格状況を理解すること、国家試験の合格を目指していかに日々の学習を進めたらいいかについて知ることを目的としたものであった。

3 研究活動および社会貢献活動

・看護学部共同研究・プロジェクト推進委員会について

共同研究・プロジェクト推進委員会は、看護学部が開設された2007年4月、学部長を委員長として設置された。これは本学部の学術研究及び教育の充実・向上を図ることを趣旨と

し、その目的は、本学部が組織として行う或いは組織として係わる研究・プロジェクトについて計画・立案・実施の推進を図ることにある。

周知のように、平成 18 年 12 月 22 日に改正公布された教育基本法第 7 条において、「大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探求し新たなる知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」として社会サービス機能の重要性を示している。また、平成 10 年の大学審議会答申「21 世紀の大学像と今後の改革方針について—競争社会の中で個性輝く大学—」でも、大学の社会貢献（地域社会・経済社会・国際社会等、広い意味での社会全体への発展への寄与）の重要性が強調されている。

また、淑徳大学は開学当初より「地域に開かれた大学」として歩んできた経過があり、必然的に本委員会の使命も地域開発、地域貢献を視野に入れて活動することが求められている。このような背景のなかで、本委員会はこの 1 年余あるべき姿を模索し続けてきた。

1) プロジェクトの発展過程

以下にその経過と内容を、①模索・準備期、②情報収集期、③地域交流実践期に分けて紹介する。

①模索・準備期

看護学部には専門領域が 8 領域（医学系、基礎看護学、小児看護学、母性看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、地域看護学）あり、教員も多様な教育、実践経験を有している多彩な顔ぶれである。委員会はそれぞれ専門領域のなかから学部長に委嘱されたメンバー構成となっている。

しかし、専門領域の異なるメンバーが共通にとりあげるべきテーマや方向性、方法を統一することは極めて困難であった。また、総合福祉学部のめざすニュートライアングルプロジェクト（別掲）との連動を考えた時期もあったが、興味深いテーマで実現性があり、各領域が地域での活動を通して事業や研究推進が可能と思われ、なお且つ、学生の協力参加をも視野に入れたいと考えると、思考が一時窮するという状況もあった。しかし、一貫して共通していたキーワードは「健康」であり、「生活者の視点」であった。この間、千葉市の状況を統計的な資料をもとに調べたり、本学において先駆的に地域との連携活動を実践してきた総合福祉学部の川真田教授からの助言を受けた。また、千葉市第九地区町内自治会連絡協議会（蘇我中学校区）会長の武井氏や千葉市の保健師からヒアリングを行うなどさまざまな方々の協力を得て少しずつ情報収集を行ったが、いまひとつ決め手がなく、9 月末にはニュートライアングルプロジェクトとはリンクさせない方向で落ち着いた。そしてその後は、できるだけ大学の所在する地域を中心とした関係者や機関から情報収集をしながら骨組みを創り、地域貢献の土台を築く方向へとシフトしていった。

②情報収集期

臨床看護系の教員の多くは、地域或いは地域住民という視点で仕事上の接点を持つ経験者は少ない。その中で地域と密接にかかわりを持つのは地域看護学領域である。そこで地域の

保健活動や地区組織育成の仕事を体験してきた教員からの意見を踏まえ、地域貢献を視野に入れたプロジェクト推進には何よりも先ず大学の所在地を中心とした地域の人々との接点が重要と考え、情報収集の対象を地元仁戸名、松ヶ丘、星久喜、川戸地区とし、町会自治会関係者との懇談を実施した。千葉市町内会第 16 地区連絡協議会会長の伊勢田氏、千葉市第 115 地区民生委員児童委員協議会会長の林氏との面談をもってようやく地域との接点を見出した感があった。地域に存在する団体や組織のこと、高齢化や防災の問題などさまざまな問題提起もあった。

それらの経過のなかで、地域との共同・協働による研究や活動・事業における原則として、次の四点をキーワードとしてゆくことを確認した。

第一に「健康」、第二に「地域密着（即ち住民主体）」、第三に「生活者の視点」、第 4 に「地域貢献」である。そしてあくまでも研究のための研究にならないこと、地域の人々、生活、地域の実態に則した活動であること、そのためには十分にその実態と住民ニーズを的確に把握する必要があること、出来るだけ小単位（例えば町会単位など）でモデル的に始め、徐々にそして確実に拡大していくことなどを確認した。重要なことは、真のニーズ把握には地域の人々との接点（懇談等）を重視し、それらを繰り返しながら本音のニーズを探るといった配慮である。

以上のような思考を重ねたうえで、先ず高齢者や母子問題に係わっている民生児童委員との懇談会を開催した。当日は松ヶ丘地区の民生委員総数 22 名の参加を得て、大学の見学もしていただきながら情報交換をした。初回の顔合わせでもあり活発な意見交換までには至らなかったが、それでも地域の高齢者の実態、民生委員のご苦勞など身近かな事例を通して教員は多くを学んだ。

次の段階は、大学周辺地域の「地区踏査」の実施である。これは“地域を五感で知ろう”をテーマに、コミュニテイ・アズ・パートナーモデルの簡略版の形で委員 2 名ずつ 4 班に分かれカメラ、記録版を胸に踏査を試み報告書にまとめた。日常的にバスの上から見ていた町並みも一歩中に入ると多様な顔があり、そこに住む人々へのインタビュー等を通して新たな発見もあった。こうして本委員会のメンバーは漸く、大学と地域との距離が縮まることを学習した。

以上二つの体験は、本委員会が何をどのように考えていけばよいかのきっかけ作りともなった。

即ち、研究やプロジェクトとしての事業こそ明確にはなっていないが、ここで学んだことは、「地域」をベースにする研究や実践の特徴は、先ずはその地域に入ること、人々の生活を知ること、人々と共に実践（行動）すること、人々に結果を戻すこと、そして最終的には人々の「健康に資する」こと等である。そして本委員会の基本的な研究・活動テーマを「地域と共に創る健康なまちづくり」とした。

③地域交流実践期

3月中旬から地域では独居高齢者を対象にした「いきいきサロン」が4回に亘って開催さ

れたが、ここで初めて教員は淑徳大学看護学部の看板をもって参加した。高齢者、地区役員、ボランティアなど延べ146名の参加があり、各会場に参加した教員にとっても高齢者や地区ボランティアの活動を目の当たりにし、看護学部として果たすべき役割を認識する機会となり地域交流の第一歩となった。このことをきっかけに松ヶ丘地区社会福祉協議会（以下地区社協）関係者との懇談会が実施され、多様な地区組織がある中で「松ヶ丘地区社協」を窓口とし、内部組織である5つの専門委員会（老人福祉、児童母子福祉、障害者福祉、ボランティア、福祉ネットワーク）と看護学部教員（専門領域教員を中心として）とが密接な連携を取るべく担当窓口教員の配置を決定した。このことにより、今後の地域交流が一段と促進されることが期待されている。

2) 今後の方向性

平成20年度は以下のような活動を計画している。

- ① 基礎看護学領域では「看護技術学内演習への地域住民のボランティア参加」を実現し、地域の方々に模擬患者として参加していただく。
- ② 老人福祉委員会では公民館で懇談会を持ち、情報収集、地域の人材把握の機会とする。
- ③ 地域の有志による「着物着付け教室」を学生対象に開催する。
- ④ 「ほのぼの育児サークル」を実施している児童母子福祉委員会主催の、すいか割りや戸外遊びなどの行事に学生がボランティアとして参加する。

以上主な交流予定場面を記述したが、いずれも現時点では地域と接点を持つことによる相互信頼関係の醸成という段階である。どちらかと言えば大学が地域のお世話になっているやに見える。しかし、このことこそが今後の研究・プロジェクト計画と実践の礎及び鍵となり、大学・地域連携の土台や骨組みを作っていると考えたい。地域貢献はこれからである。

・科学研究費補助金等の受給状況

1. 平成19年度日本学術振興会科学研究費補助金

看護学部

研究種目	研究者	区分	課題内容	平成19年度	平成20年度
1. 萌芽研究	北山 幸枝	新規	虚血肢をもつ患者における皮膚血流改善のための看護ケアの検討	2,600	700

・学内で開催された学会

日本精神保健看護学会教育委員会平成19年度ワークショップ（主催者 岡田佳詠准教授）平成20年1月12日（土）

「うつ病患者の認知へのアプローチ—認知療法を学び看護に活かそう！—」

4 学生の活動

・淑徳ハーモニークラブの結成（学部付置）

- ・ロビーコンサート……平成 19 年 12 月 18 日（火）、国立病院機構千葉東病院 1 階ロビーにおいて、入院中の患者さんやその家族、および特別支援学校の生徒さんを迎えて 1 年次生の有志、および教職員有志による、ハンドベルを用いたロビーコンサートを開いた。なお、総合福祉学部の手話クラブによる手話の曲も披露された。参加者約 70 名。
- ・サークル活動……「全☆My☆てい」、「ばんぷきん」、「MIKFY-ASH」が設立され、活動を開始した。